

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

模索していた時でした。

NIEとの出会いは、ちょうど10年前、前回の学習指導要領の改定で新たに創設された「総合的な学習の時間」の中で、これまで教科や道徳、学級指導などで使ってきた新聞を、より有効に活用する方法はないかと模索していました。

北海道NIE推進協議会は、北

は中学校で「言語活動の充実」を柱の一つに掲げた、新しい学習指導要領に基づく取り組みが始まりました。これまでにも増して私たちが取り組んできたNIEへの期待、そして期待に応えるための責任を感じま



研究大会への期待を実感

札幌市立定山渓中校長 豊島 義明

「NIE」を何と読むかもわからず、何をどうすれば良いか自分なりに悩んでいました。当時の北海道新聞NIE委員会の木本尚康事務局長に、NIEを始める

本年度から会長を務めることになった北海道NIE研究会は、2005年に北海道新聞教育研究会を母体とし、いまの名称と

「考える人」になるいきる力をスローガンに、道内から道NIE推進協議会の高辻清敏会長や道NIE研究会の豊島義明会長も参加した。開会式では、主催した日

第17回NIE全国大会福井大会が7月30、31日に、福井市内で開かれた。新聞を効果的に活用する新学習指導要領が小、中学校に統一され年度、高校に導入されるのを前に、全国の学校教諭、新聞・通信社関係者約1800人がNIEの新たな意義や方法を探った。

本新聞協会の秋山耿太郎会長がNIE活動を通じ、「子どもの考える力、生きる力を伸ばそう」などとある力を伸ばそう」とあります。全体会では地元福井県NIE推進協議会の寺尾健夫会長が基調講演し、自律した「考える人」を育

ては、福井県ゆかりの湯浅誠さん(反貧困ネットワーク事務局長)が、格差社会などの見直しを各個人が考え



NIEの在り方などをテーマに意見を交わした初日のパネルディスカッション

「考える人」育成へ討議 教育課程の整備も提唱

ては、成長に応じ6段階で

るためには義務教育が重要なとして「教室にはその時間と空間が確保されている」と学校の役割を強調した。

最終日の31日は、会場を仁愛女子高などの2カ所に増やし、県内小中高の六つと公開授業と八つの実践発

彰りにしたり、世界の中でもNIEのカリキュラムが必要、と提唱した。続くパネルディスカッションでは、寺尾会長はじめ教諭や女性起業家ら4人がそれぞれの立場から新聞を有効活用する教材開発を推進したり、多様な視点を紙面に盛り込んだりするよう提案した。

これに先立つ記念講演では、福井県ゆかりの湯浅誠さん(反貧困ネットワーク事務局長)が、格差社会などを熱意がこもった。

表が行われた。公開授業は福井新聞などを使って、敦賀市までの延伸が決まりました。実践発表では、1面のニュース候補を検討した昨年の授業を踏まえ、メディアの特性を討議した。

開会式では、NIE活動で知られる仁愛女子高のダンス部が南米の古代インカ

帝国の遺跡マチュ・ピチュをモチーフに躍動感ある踊りで花を添えた。

2日間、県内の高校新聞部が主

管社の福井新聞社の協力

で、きめ細かく大会を伝え

る速報新聞を発行した。

福井市内は両日とも最高

気温が36度台半ばまで上が

ったことも手伝い、各会場

で熱気がこもった。

に当たつてのノウハウや、組織に改めて今年で8年

までに取り組んでいる人た

もたちに新聞を通して「生きる力を育みたい」という熱い思いをもつて活動に取り組んできました。

札幌を中心とする「道央」

支部をはじめ、「道南」「道

北海道NIE推進協議会の

北

海道NIE推進協議会の

北

支部をはじめ、「道南」「道

北海道NIE推進協議会の

北

2地区でセミナー 石狩では初開催

教員数の多い札幌圏と近郊の石狩教育局管内では、初の試みとなる北広島・石狩セミナー（8月8日）を迎えた函館・渡島セミナー（6月22日、函館市立的場中、50人）がそれぞれ開かれた。

北広島・石狩

全国大会を振り返って



最高気温36度。福井の猛暑は容赦なく襲いかかってきた。しかし、大汗をかき、苦しんでいるのは私と幼いくらい。中、高生はこの暑さでもかわらず、きちんと制服を着こなしていた。電車の中の高校生は友た。

帯広市立西陵中教頭 野上 泰宏

実践発表で、札幌市立平和小の稻岡亜佑美教諭は上野動物園でパンダの赤ちゃんが生まれ、すぐ死亡した記事の写真を見せ、パンダへのメッセージを書かせた1年生の授業を紹介、「伝える力を育てることができること」と総括した。

同中央中の古畑理絵教諭は記事の要約や意見発表の際に「しつかり考えさせて

2012年(平成24年)8月25日

パンダの赤ちゃんへ伝言



から発表させる」注意点などを紹介した。

恵庭南高の戸内敬志教諭は学級日誌に「一面記事から」というコーナーを設け、新聞を読まなければ書けないよう工夫した実践を報告した。

函館・渡島

「古事記」と記事読み推論

両親が島根県出雲市出身という場中の中尾文教諭が、「古事記」編さん130年を迎えるのを機に、「神話と古代史」出雲大社高層神殿の謎として神話の記述を題材にした2年生の歴史分野の授業を公開。生徒に48もの高層神殿が実在したかどうか、を推理させた。古事記などの記述のほか、「設計図の原本初

公開」といった新聞記事を根拠にグループで話し合わせ、「古代神話は架空の話だけでなく、史実を反映する部分もある」ことを学ばせた。

発表では、北斗市立久根別小の森本喜隆教諭が6年生に行つた新聞の情報量の多さを理解させる取り組みを、同上磯中の堀田麻由子教諭は4年前に部に昇格し

ど、前任校を含む取り組みを紹介した。

震災の現地取材で感じたことなどについてミニ講演した。

東の高専の准教授や、米国補習校で教える教員も訪れ、熱心に聞き入った。

スクラップ教室 親子100人が参加



小学生と保護者が、関心のある記事を切り抜いてスクラップ新聞をつくる「夏のほか、「設計図の原本初

発表に先立ち、北海道新

聞の徳永仁記者が東日本大

震災の現地取材で感じたこ

となどについてミニ講演し

た^{II写真}。会場には北関

東の高専の准教授や、米国

補習校で教える教員も訪

れ、熱心に聞き入った。

発表に先立ち、北海道新

聞の徳永仁記者が東日本大

震災の現地取材で感じたこ

新聞を活用した授業の取り組みなどについて意見を交わす全国新聞教育研究協議会(全新研)の「第55回研究大会」が8月3、4日に帯広市の「とかちプラザ」で開かれた。新聞で関心の対象を広げ、思考力・表現力を育む実践を、と全国の小中高の教諭ら200人が分科会や授業公開で実践方法を研究した。

授業づくりへ意見交換

**帯広で
全新研大会**

算数にスボーツ面活用

帯広での開催は7年ぶり3度目。初日は地元の4教諭が道徳、算数、理科などの授業を公開した。

帯広第一中の後藤卓也教諭は、5月の金環日食の記事を使つて1年生の「月の形と位置の変化」を見る理科の授業に挑戦。

道外の地方紙の記事をグループごとに読み、観測の様子を伝えたかをかべ新聞をもとに日食の場所によつて見えた方が異なる点などを、自分た

日本ハムなどの勝率を目隠しして計算させ、勝敗表はあらかじめ引き分けを除いた形で書かれていることを理解させた。

横田局デスクは十勝に50年周期で起きるといわれる大規模地震への警鐘など、防災報道と徹底的に取り組んだ様子を紹介。「学校は通学路や避難経路をしっかりと調べ、どうすれば本当の防災・避難対策になるかを

は、「割合」の復習を兼ねて新聞のスポーツ面にあるブームを選ぶ活用法をあらためて確認し合つた。

音更小の齊藤雅彦教諭

のことばで説明しながら理解。新聞から身近なテーマを選ぶ活用法をあらためて確認し合つた。

震災を機に東北臨時支局(仙台市)を拠点に取材を続ける道新の勝木記者は、「今回ほど東北を強く意識したことはない。北海道を開いた。東北で起きていることが就労や高齢化など将来の日本の姿を先取りしている」と述べた。

直していきたい」と語った。

2日目は四つの分科会で

の営み、心を書きたかっ

た。東北の結びつきや関係を見

た。東北の結びつきや関係を見

ちのことばで説明しながら理解。新聞から身近なテーマを選ぶ活用法をあらためて確認し合つた。

音更小の齊藤雅彦教諭は、「割合」の復習を兼ねて新聞のスポーツ面にあるブームを選ぶ活用法をあらためて確認し合つた。

横田局デスクは十勝に50年周期で起きるといわれる大規模地震への警鐘など、防災報道と徹底的に取り組んだ様子を紹介。「学校は通学路や避難経路をしっかりと調べ、どうすれば本当の防災・避難対策になるかを

は、「割合」の復習を兼ねて新聞のスポーツ面にあるブームを選ぶ活用法をあらためて確認し合つた。

震災を機に東北臨時支局(仙台市)を拠点に取材を

続ける道新の勝木記者は、「今回ほど東北を強く意識

したことはない。北海道と

の営み、心を書きたかっ

た。東北の結びつきや関係を見

た。東北の結びつきや関係を見



日食の記事の要點をまとめる帯広第一中の生徒

記者3人が討論
討論では、十勝毎日新聞の横田光俊・局デスク、北海道新聞の勝木晃之郎記者、岩手県釜石市で長期ル

NIEが子どもや教師にもたらす変化を探るために、北海道新聞社は6月から道教育大釧路校との共同研究を始めた。同校の藤本将人講師(社会科教育学)、玉井康之教授(地域教育学)、本橋幸准教授(国語科教育学)と道新のNIEの担当者が釧路管内の中学教諭7人に約2年間、授業実践を

してもらい、子どもの社会に対する意識の変化や効率的な学習法を探る。釧路市立春採中で実践メーリーの一人池田泰弘教諭が3年生の公民分野で少子高齢化を学ぶため同月末、同6日朝刊1面の同紙

の新聞づくりをテーマにし

た分科会では、全新研会長

である東京・目黒区立第

十中の木野村雅子校長が前

任校での学校ぐるみの新聞

でもある東京・目黒区立第

2日目は四つの分科会で

の営み、心を書きたかっ

た。東北の結びつきや関係を見

た。東北の結びつきや関係を見

北海道新聞社と道教育大釧路校 2年間の共同研究スタート

記事「初産 初の30歳超え

もたらす変化を探るために、北海道新聞社は6月から道教育大釧路校との共同研究を始めた。同校の藤本将人講師(社会科教育学)、玉井康之教授(地域教育学)、本橋幸准教授(国語科教育学)と道新のNIEの担当者が釧路管内の中学教諭7人に約2年間、授業実践を

してもらい、子どもの社会に対する意識の変化や効率的な学習法を探る。釧路市立春採中で実践メーリーの一人池田泰弘教諭が3年生の公民分野で少子高齢化を学ぶため同月末、同6日朝刊1面の同紙

の新聞づくりをテーマにし

た分科会では、全新研会長

である東京・目黒区立第

2日目は四つの分科会で

の営み、心を書きたかっ

た。東北の結びつきや関係を見

道内高校新聞

3

ナウ

「商定新聞」は旭川商業高
定時制の生徒がつくる手書
き新聞だ。筆者は交代する
が、丁寧でしつかりした文
字、精いいっぱいの自己表現
で月2度の発行を目指す。
記事は校内行事や、「バイ
トする人、しない人の食生
活」「資格・検定」「大会速
報」「原発」など多彩だ。
時に、胸の奥にしまい込
まれた悩みや内省的テーマ
に切り込むことも。自殺に
ついて考えた「命」(200
6年)や一部生徒が起こし
た薬物使用問題(0~8年)
も扱った。「夜回り先生」の
水谷修氏が旭川で行つた講
演も取材した。働きながら
学び、社会のとば口に立
つ、生身の生徒たちが本音
で語り合う場もある。



ペン1本でこつこつ製作を続ける商定新聞の記者9人

な情報不足を補うのが「商定新
聞」だ。

編集後記

○… 2年ぶりに行われた全国学力テストの調査で、道内の小中学生は、全国平均との差を前回より縮めたものの、なお隔たりがある現状が明らかになった。

○…「データの読み取りが課題」(小学・理科)「文章の書き換えが苦手」(中学・国語)。記述式に弱く、自分の考えをうまく表現する力や主体的学習が求められている様子が調査であらためて浮かび上がった。

○…道教委の肝いりで、道内の学力を全国平均以上にアップさせる取り組みが続いている。教育現場で新聞を活用してもらうNIE活動も、言語活動の充実を目指す新学習指導要領を具体化させる大切な要素だ。家庭での学習を習慣化させる意味でも、日常に即した実学を身につけてもらう意味でも、新聞活用の効果をさらにアピールしていきたい。（大）

「どうすればインパクトのあるレイアウトになるんだろう。見出しつて、めつちや難しい」。

定時制は、義務教育でなく登校を経験した生徒が少ない。対人関係で傷つき、気がつくと学校から遠ざかっていた。自信を失い、自己肯定感が薄い。だが、ここへ来て新たな居場所を見つけ、仲間とふれ合いう大切さ、他者との共生に気づく。取材を通じて自らの心理的葛藤（かつとう）と向き合い、克服する。春には新入生2人が入部した。これで女子9人、と

商定新聞

商定新聞の記者9人 時制は3年で履修の生徒も含め、交友範囲が限られる。「クラス以外、接触がない」「限られた時間で交流が難しい」。こんど自分が入った。そこで人の出会いや新聞が出来る達成感、読者に配るドキドキ感がやみつきになつた。たいへんだつたけど、やつて良かった」と振り返る。入学当初からのケーキ店のアルバイトはいまも続き、

悟すると、先生がかわいそ
う、ときり気なく気遣い、
入部してくる生徒がいて、「
休部したことはない」と顧
問の岸美千代教諭。いたわ
りと結束が3年生6人のだ
れ1人として辞めないこと
にも表れている。取材を通
じて人間関係を築く楽しき
に気づいたあかしだ。

卒業して2年になる東谷
迪香（みちか）さん（21）
も思いは同じ。在校中はボ
ランティア愛好会、バドミ
ントン部、生徒会、新聞部
の4役をこなした。「一人
でがんばっていた後輩が家
の事情で退学し、部員0に
なるので活動を手伝つてい

カフエを開く夢を描く。
1年生の荒瀬鈴香さん、
樋口美香さんも得意なア
ニメやマンガの腕を磨き
つつ、先輩の文章指導を受
ける。「もう少し詳しく聞
いてきて」。時に岸教諭
の、げきが飛び、取材先と
往復する毎日。

高文連大会などでさま
ざまな出会いも経験。全
日制の生徒と共に活動し、物
事とされる自分がいて、物
事を多角的に見る大切さ
に気づく。そんな貴重な
瞬間を体験できるのが新
聞部の良さかもしれない。

新聞同好会として1998年秋にスタート。2006年に新聞教育研究所（大内文一氏主宰）から「短い記事で生徒の動きが表現されている」として「新聞と教育賞」が贈られた。10年には大東文化大主催の全国新聞コンクール特別賞。

本年度予定された全道10力所のうちの4力所目。当 日は午後1時半からで、公 開授業と3教諭による実 践報告が行われる。参加は自 由で無料。申し込み・問い合わせは、北海道NIE推 進協議会事務局（北海道新 聞本社内、☎011・21 0・5802）へ。
▽公開授業 国語科「学 級新聞を作つてみよう」網 走小3年2組 渋谷涉教諭
▽実践報告 網走市立東 小・後藤亜希教諭、北見市 立小泉中・北川大教諭、斜 里高・井村了介教諭

網走でセミナー 9月7日に開催

北見・オホーツク

お知らせ